



コミュニケーションの話

建設現場において事故を防ぎ、安全を守るためには、
コミュニケーションがとても大切です。
オープンな人間関係を築いて
危険に対する情報を共有し、お互いに注意を促し合って
労働災害のリスクを取り除いていきましょう。



建設現場における労働災害は、コミュニケーション不足やコミュニケーションエラーを発生要因とするケースが少なくありません。工事の進捗につれて、作業環境が日々変化し、ときには作業員の顔ぶれも入れ替わる現場では、管理者と作業員、あるいは作業員同士が十分にコミュニケーションを取り合わなければ、どこにどんな災害の芽が潜んでいるか適切に把握できず、重大な災害につながる可能性が高まります。特に、世代が離れていたり、持ち場が違ったりすると、コミュニケーション不足になりがちですから、いつものあいさつに一言添えたり、作業の合い間に声を掛け合ったりして、日頃からオープンな人間関係づくりを心掛けるようにしましょう。



相手を「労う」「褒める」「認める」「励ます」
ちょっとした一言で人間関係はスムーズになります

作業指示の心得

- あいまいな表現を避け、5W1Hを踏まえて具体的に説明する
- 言葉だけでなく、図面や身振り手振りなどの視覚的な手段も使って理解を深める
- 必要な場所へ行って手本を見せ、自分の体験などを通して話をする
- 相手に疑問や質問がないかしっかり確認を取る
- 作業開始後に相手の行動を観察し、指示が正しく守られているかチェックする

もし作業中にミスが起きた場合も、叱ったところで失敗はなくなりません。感情的に叱って責任追及するのではなく、なぜそのミスが起きたのか本人から事情を聞き、一緒に原因を考え、突き止め、再発を予防する手立てを打つようにしましょう。ミスは誰にでもあるもの、失敗を乗り越えてはじめて人は成長します。一度した失敗は起こさないように、もし起こしてしまっても被害を最小限に食い止めるようにしなければなりません。

作業員同士のコミュニケーション

大勢の作業員が忙しく立ち動く建設現場では、各々がさまざまなヒヤリハットやあと一歩で事故につながりかねない危険を体験し、ケガをしないように注意を払っているはずですが、でしたら、その気遣いを自分だけでなく、同僚や部下、さらには他の現場で働く仲間たちにも教訓として広げてみたらどうでしょう。「この間、作業中にこういう体験をしてヒヤッとしたよ」「その作業をするときは、こんなミスをしがちだから気を付けて」など、お互いの体験や情報を共有し、現場のどんなところに危険が隠れているのか、事故を引き起こす原因となっているのか、注意を促し合うようにしましょう。そして、どこを改善していけば、より安全に作業を行うことができるのか、日々のコミュニケーションの中でアイデアや意見を出して災害のリスクを取り除いていきましょう。

管理者と作業員のコミュニケーション

現場では、作業指示や打ち合わせの内容が十分に理解されなかったり、誤って伝わってしまったために、大きな災害が発生することがあります。そうしたコミュニケーションエラーを防ぐためには、話し手が自分本位で伝達するのではなく、相手にしっかり届いているか確認しながら、正確に伝える努力を惜しまないことが大切です。日常茶飯事のように繰り返される「言った、言わない」の騒ぎは、こんなところから発生します。

今日のワンポイント

自分の自己表現タイプを知って、コミュニケーション上手になろう。

自己表現の仕方は人それぞれですが、大きく分けると次の3タイプがあります。自分がどのタイプに当てはまるかを知って、アドバイスを仲間たちとのコミュニケーションに役立ててください。



攻撃型 アグレッシブ

相手のことをあまり気にせず、自分の意見や主張をはっきり言うタイプ

●アドバイス
自分の考えを相手に押し付けがちではありませんか？はっきりと主張することは大切ですが、相手の立場に立って考えることも重要です。まず、相手の話を聞くように心掛けましょう。

受身型 ノン・アサーティブ

相手の気持ちや考えを優先し、自分のことを後回しにしてしまうタイプ

●アドバイス
こんなことを言って、笑われたり、嫌われたりしたらどうしよう。そんなに不安がなくても大丈夫です。あなたの考えやアイデアが、みんなの安全に役立つヒントになるかも。思い切って口に出してみるようにしましょう。

調整型 アサーティブ

自分の考えを主張するが、相手の考えや意見にも耳を傾けるタイプ

●アドバイス
状況に合わせて、自分の考えを積極的に表現し、相手の意見も受け止めることができるあなたは、現場の良好な人間関係づくりにもきっと役立っているはず。コミュニケーションのパイプ役としてこれからも頑張ってください。